

## \*\*\* 今日の健康(2月) \*\*\* < ジカ熱 >

世界保健機関(WHO)は2月1日、蚊が媒介する感染症「ジカ熱」について、感染は「爆発的に」拡大しており、国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態にあたと宣言しました。

「ジカ熱」が、ブラジルを中心に中南米各地で大流行しており、米国や欧州でも中南米からの帰国者に感染例が見つっています。厚労省によると、日本ではこれまで、海外の渡航先で感染し、帰国後に発症した「輸入症例」が2013年以降に3例で、国内での発症例は報告されていません。

ブラジルでは今月5日(金)から9日(火)までリオのカーニバルがあり、また8月のリオデジャネイロ五輪の開幕まで180日余りと世界中から人が集まるイベントでの感染拡大が憂慮されています。日本人も多く渡航すると予想され、日本にもヒトスジシマカなどウイルスを媒介可能な蚊が生息していることから、日本国内での感染帰国者→蚊→人への発症が危惧されています。



### <ジカウイルス>

世界保健機関(WHO)によると、アフリカ中部ウガンダの森林で1947年、初めて原因となるウイルスに感染したサルが確認され、その地名にちなんで「ジカウイルス」と命名されました。これまでは主にアフリカ、東南・南アジア、オセアニアなどで感染者が確認されていたが、中南米では感染例はあまり見られませんでした。中南米で感染が拡大した要因としては、人々のウイルスへの耐性が弱く、気温や湿度の影響でネッタイシマカのような媒介する蚊が広く生息していることが挙げられます。

### <症状・感染経路>

3~12日の潜伏期間を経て、発熱や発疹、筋肉痛や疲労感などの症状が出ます。デング熱などに比べて症状が軽く、4人に3人は感染自体に気付かないことが多いです。重症化や死亡例の公式報告はありません。蚊が媒介して人に感染する例が主ですが、2月2日、アメリカ・テキサス州ダラス郡で蚊を介さず「直接人から人に」感染した事例が報告されました。感染はベネズエラに渡航した人との性行為によって起こった可能性が高いとのことです(詳細確認中)。

### <後遺症>

妊婦が感染すると、先天的に頭が小さく、脳の発育が不十分になる「小頭症」との関連が疑われており、ブラジルでは感染した妊婦が産んだ新生児が小頭症を持つ報告例が例年比で大幅に増えています。両手足のしびれや力が入らなくなる神経障害「ギラン・バレー症候群」との因果関係も指摘され、研究が進められています。

### <治療、予防>

有効なワクチンや抗ウイルス薬はなく対症療法のみで、媒介する蚊に刺されないよう、虫よけ防虫、長そで長ズボン等で肌の露出を避けることが重要です。

フランス製薬大手サノフィは2月2日、中南米を中心に流行している「ジカ熱」について、ワクチンの開発に着手すると発表しました。デング熱に関する研究成果を「応用できる可能性がある」と説明しています。